

「神道大系」新旧の間

太田 正弘

「神道大系」については、新たに発足した「神道大系」第一回配本（『古事記』の月報（昭和五十二年十二月）に松下幸之助会長名で、次の記事がある。

かつて文部省においては、政府事業として、国民精神文化研究所に「神道大系」の編纂、刊行を計画されていたのですが、敗戦の混乱とともにそれが中断され、再建の機もありませんまま今日に立ち至つてしまいました。まことに惜しむべきことであります。

右にも見える如く、「神道大系」は、元々、文部省所管の国民精神文化研究所で、昭和十七年一月に始まつたもので、その編纂の末席に列なつてをられた西田長男先生は、何とか再びこれを実現したい、出来ないものか、との思ひを折にふれて洩らされてゐた。

それが三十年餘の歳月を経て、西島一郎氏の仲介によつて、松下幸之助翁の助力を得て実現したものであつた。この経過については、私は当事者ではないので記すことは控へるが、その前段に、「神道大系」の実現は無理として、「神道思想文献集」の様なものを考へてをられた時期があつた。私の手元に、

昭和四十六年三月十八日記

本月十四日
西田先生の
示教による

神道思想文献集

熱田神宮

太田 正弘

とある野紙に書かれたメモ（右の表紙共四枚）がある。約

五十年の時を経て、正直な所、右を記した時の記憶はないが、当時の手帖を見ると、

昭和四十六年三月十三日 高速バスで上京

十四日 午前、西田先生宅

午後、無窮会図書館

夕、西田先生宅、泊

とあるので、十四日の午前か夜に聞書したものと思はれる。その内容を、最初だけ記してみると、次の様である。

斎部 古語拾遺

中臣 中臣寿詞（台記別記）・中臣祓（延喜式）

伊勢 神道簡要・神祇秘抄・神儒仏説

吉田 唯一神道名法要集・神道大意

吉川 神道大意註

垂加 神代卷風葉集・垂加文集

右の様な調子で、二十五項目が記されてゐる。

そのうちの、「縁起」の所にある「住吉神社神代記」

は、「神道及び神道史」第十八号（昭和四十七年七月）に特輯号として、小野田光雄稿「新住吉大社神代記」になつたものと思はれる。私も、先生の指示によるものか、自ら作製したものの記憶にないが、真福寺蔵の「熊野縁起」四種の釈文と解題の草稿が手元に残つてゐる。多分、「神道及び神道史」用に作つたが、「神道大系」の発足に

より、そのままになつたものと思はれる。

以上、西田先生の心中にあつた戦中の「神道大系」に對する思ひが、「神道思想文献集」と云ふ形で実現されようとした時期のあつたことを記憶に留めて置きたい、と云ふのが、本稿の主旨である。

その後、西島氏の仲介により松下翁と西田先生の邂逅があり、神道大系編纂会が発足したのが昭和五十年十一月（同五十二年三月、財団法人）、同五十二年十二月に、その第一冊『古事記』が刊行されたが、全巻の完成を見ずして、同五十六年三月に西田先生は亡くなられた。

最後の第百二十冊目の『風土記』が、編纂会の発足から二十年を経て、平成六年三月に刊行された。明年（令和三年）は、早くも西田先生の歿後、四十年である。そして、私は先生の享年を超えてしまつた。

参考文献

- 「神道大系」月報1（昭和五十二年十二月）
- 松下幸之助「刊行のことば」
- 「同」85（平成元年三月）
- 志田延義「神道大系編纂の歴史と神楽歌の淵源」
- 「同」号外（平成六年三月）
- 大野健雄「神道大系百二十巻刊行経過報告」

（明治聖徳記念学会員）